



【発行所】
 一般財団法人 長寿会
 小田原市入生田475
 TEL.0465-24-0002(代)
 発行人/加藤伸一
 編集/夢編集委員会

大自然の中での生活



入居者
福島 衛

大自然を求めてやって来ました長寿園。私の長寿園での生活がもう十八年目になりました。温暖な気候で穏やかに住める場所として長寿園を選びました。夫婦二人で入居しての生活が落ち着き始めた頃、五年目にして妻に先立たれ、これから先どうして行くか大した趣味もないので入生田の友達に相談したところ、夜の勤めはどうかと云う話になり早速、箱根の旅館を紹介

して頂きナイトフロントとして、箱根と仙石原の旅館に二年間勤めました。だんだんと落ちつき始めた頃、和の会の役員をやってくれと頼まれ、断れずに会計を十年近くやりました。この間に入生田の公園でゲートボールを始め、又売店の手伝



売店の様子

は見ているとライトの光がきれいでしたが、今では森林が大きくなり全然見えなくなってしまうました。大自然の中での生活は今まで色々なことがありました。が、元気に頑張っています。

して頂きナイトフロントとして、箱根と仙石原の旅館に二年間勤めました。だんだんと落ちつき始めた頃、和の会の役員をやってくれと頼まれ、断れずに会計を十年近くやりました。この間に入生田の公園でゲートボールを始め、又売店の手伝

いも七、八年やっており現在にいたっております。卓球も十年とやってはいますが、一向に上達しないのです。園の周りを見ると入居当所はA棟二階ベランダから箱根の山の中腹にターンバイクという道路が見えました。夜

もう少し生きてゆこう。長寿園の職員の方々の親切な対応で温かく見守ってくれたことに感謝しております。これからは職員の方々には、お世話になることが多くなると思いますが、どうかよろしく面倒を見て頂きたいと思っております。



豊かな自然に囲まれた長寿園

もくじ

父の回想………	2
有料老人ホームはシルバービジネスでしょうか	3
福祉を歩く………	4
花に寄せて………	4
長寿園の日々………	5
クラブ紹介1………	6

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことによって社会に貢献します。

父はレンゲ・アカシア・トチノキ等のハチミツを採取して販売する養蜂業を営んでいました。毎年、春から夏にかけて全国を飛び回ります。私も子供の頃少しだけ手伝った思い出があります。ミツバチに刺されないので網の付いた防具を被り、手袋をします。小さな体のミツバチは何キロも飛行して、花のミツを吸って巣に集めます。ミツバチには大変申し訳ないですが、その蜂の巣を輪転機に入れて回します。琥珀色の暖かいハチミツが缶の中に注がれていきます。大自然の中での作業は健康そのものです。ただ、夏に防具をかぶる暑さは半端なものではないです。

もともと父は体育を専攻し、将来は体育教師を目指していました。しかし、戦争になり出兵。



父の回想

入居者家族 中田光彦

戦後、教師の夢も途絶え、友達の誘いから養蜂業を選んだようです。戦争の愚かさや悲惨さを父から何度も聞きました。いい加減な私は真剣に聞いていませんでしたが。

引退後は夫婦そろって長寿園にお世話になりました。二人共こちらの暮らしをとても気に入っていました。母はすでに亡くなりましたが、父はもう二十一年お世話になっています。九十五歳になります。が、年の割に元気です。

しかし、今年に入ってから身体や認知機能が衰え、入退院を繰り返しました。本人は慣れない病院の生活に、躊躇した行動をとりました。病院から身体拘束の提案がありました。私が、私は拒否しました。退院する時、医師から「大変だった」とお叱りを受けました。長

寿園に帰ってからは、職員の皆様に暖かく介護していただき、父も笑顔を取り戻しました。

私は父が寝たきりにならないように、毎月車で外出していましたが、最近は何れも嫌がるようになりまし。無理せずゆっくりと父との時間を過ごそうと思っています。

介護は昼夜問わない大変な仕事です。私たち家族はいつも感謝しています。今後もしよろしくお願いします。



川柳「宝籤 福引」

青木 千代

口惜しいが誰かが当たる宝くじ
当たらない人が支える宝くじ

小池 怜子

ジャンボ買う今日の
ラッキーカラー着て
恵まれた人が福引当ててゆく

田川 富子

初釜を終え福引のお楽しみ
福引は外れ続けの半世紀

竹中 糸子

年末に懸けてみようか
ジャンボくじ
くじ当たる夢のようだ夢の中

田中 和子

当たればの夢がふくらむ宝くじ
買わないが夢かりたる宝くじ

有料老人ホームは シルバービジネスでしようか

理事長 加藤 伸一

この所、一部の有料老人ホームの経営の仕方が問題とされ、たびたび新聞雑誌をにぎわせて

います。先日新聞一面に有料老人ホームがまるごとそっくり商品になってしまい、M&Aが頻繁に行われているといった記事が載っていました。介護専用型有料老人ホームでは入居一時金は一律五年償却が一般的ですが、五年を過ぎると入居者は儲けを生まない厄介者になるとの考えから、何とか追い出そうとするといったような内容でした。ビジネスとして考えれば当然のことです。その少し前には、在宅診療の診療所と組んで紹介料を払い、患者を抱え込むといった報道もありました。また、サービス付高齢者住宅

は普通の人から見ればサービスのない新型有料老人ホームといった報道もありました。

シルバービジネスという言葉が登場して二十五年近くがたちますが、有料老人ホームをシルバービジネスとするのにはどうも私には、ずうっと違和感があります。にもかかわらず、シルバービジネスの筆頭は有料老人ホームであり続けています。業界紙では売上高や利益の大きい会社が良いとされ、居室が多ければ多いほど良いとされます。ビジネスと考えればこれも当然でしょう。しかし、そこに住む入居者の満足度はランキングにされません。ひとつのホームは満室になれば収入は一定となってしまう

す。したがって、支出を押さえない限り以上の利益は生まれません。一方、ご入居者に満足した生活をしていただくには、

人員も必要だし、スタッフの教育にもお金はかかります。施設が古くなれば維持管理にも費用はかさみます。その中で費用を抑えるということは、サービスを省くか、賃金を低く抑えるか、不正を働くしかありません。一生懸命やればやるほど収益が計れない仕組みです。古くからやっているホームはどうにそのことに気がついていきます。そこで、面倒くさくなったところは、

会社を売りにだしてしまうのです。そうしないで、営々と続けているところは、儲けや利益を目的としないで、社会的使命感やその設立の理念で経営を行っているのです。もちろん採算は合わなければなりません。しかし、そうしたところは、スタッフもご入居者も生き活きとして

いるように思います。長寿園は一般財団法人という利益を追求しない法人で運営し

ております。したがって、シルバービジネスという認識は設立以来全くなく、今後もあり得ません。

有料老人ホームはもとと老人福祉法に定められたものです。しかし、今日では、福祉とは程遠いビジネスとして経営している会社がほとんどです。高齢者がますます増え続けるなか、高齢者のあるべき住まいについてあらためて考えてみる必要があるのではないのでしょうか。



ご入居者との座談会様子 (小田原清閑亭にて)

福祉を歩く



相談員
山中 圭子

「お父さんが帰ってこない。」と母からの電話で父を捜しに出ました。その頃の父は、母に食事を摂ってないと言い、母は理解できない父の言動で心を痛めていました。

私は職業訓練校で福祉学科があるのを知り、父の事をもっと理解したい、勉強をする機会を得たいと思い入校しました。訓練校では年齢、職業、思想などまちまちな者同士が集まりグループワーク中心の授業でした。実習先では多くの感動をもらい人の人生に関わることの重みを強く感じて、涙を流してしまいうこともありました。現理事長は講師をしておられ私も生徒として受講していました。

平成九年に長寿園に入職。加藤常務との面接の時、「貴方、そんなにやせていて介護の仕事はできますか。」と質問されま

した。私は父を二階から背負って通院をしていたと話すと、「よくそんな力があるわね、お父さんはしあわせね。」と、返ってきたのは優しい言葉でした。バザー、お猿さんの着ぐるみを着ての運動会、三代の会、長寿大学、ひな祭り、ダンスパーティー、クリスマス会など三人の主任の下（歴代の主任）で厳しくご指導いただきました。平成十五年からは生活相談員の仕事がスタートしました。介護保険制度も始まり、私はA棟のヘルパー室での仕事につき、パソコンが無かったため自宅での仕事と大変忙しい毎日を送っていました。陽光の園、箱根山荘、長寿園と合同の行事から、各施設の行事に移行となり、新しいことばかりで戸惑い、いろいろな部署の方にご迷惑をかけてしまいました。一生懸命自分なりに向き合ってこれたの

もご入居者の方に支えられてきたからだと感謝の気持ちでいっぱいです。

「我以外皆、われの師である（吉川英治）」父が好きな言葉でした。すべての人から学べるこゝとがあり、それは良い経験であり、向上心は自己を成長させる」と父が言っていました。五十代になって、社会福祉士の勉強をさせて頂く機会を得たことを大変ありがたく、これからは、「福祉とは幸せを皆で分かち合う、支え合うもの」という気持ちを忘れずに歩いていきたいと思っています。

花に寄せて

秋の花

茶の花

入居者 渡辺 千萬子

十一月になると秋の花々が次々と咲き始める。

「秋」と言っただけで思い浮かぶのは「菊」かな？金木犀もあるし、春とは又違った種類もた

くさんある。しかし、春の花の華やかさに対して少し違った憂いがある。どことなく寂しく感じられる。咲き誇っているといたるところは、ないように思う。これから冬に向かって、やがて紅葉し散ってゆく運命を感じているかのようだ。

いつもの朝の散歩というよりだんだん衰えてゆく足のために、みかん山を歩く。垣根がお茶の木の一部ある。お茶を作るのも花を愛でるのでもなく、常緑の丈夫な木を畑地の囲いにしたのであろう。それでも季節が来ると茶の木はけなげに花を咲かせる。白い小さい花はしっかりと、かすかに香りもする。

この花のように無心に生きていられたら、どんなにすがすがしいであろう。

海は今日も静かに風いで一枚の美しい光る面のようだ。



長寿園の日々



夏祭り



- 8月3日 夏祭り
- 9月11日～敬老週間
 - 12日 クラブ活動発表会
 - 13日 歌を楽しむ夕べ
 - 14日 キネマデイ
 - 16日 祝賀式典
- 12日～17日 作品展
- 10月26日 秋のバイキング
- 27日 60周年イベント



敬老 祝賀式典



敬老 作品展



転倒予防教室

長寿園では職員による業務改善のための各種委員会があります。その一つに、事故防止委員会があります。高齢になり心身の機能が衰えてくるとどうしても転倒される率が高くなります。設備や居室の環境整備は職員サイドでもできますが、なんでもないとんでもない転倒されてしまうのが高齢者です。そこで、高齢者の体のメカニズムや日頃気を付けなければならぬ点などを事故防止委員会が講師となり、ご入居者を対象に転倒予防教室を開催しました。当日は多くのご入居者が真剣に話を聞かれました。



転倒予防教室の様子



敬老 クラブ活動発表会



敬老 歌を楽しむ夕べ

クラブ紹介 1

長寿園のカルチャー教室

長寿園には多くのクラブ活動やサークルがあります。長寿園六十年の歴史の中で時代により新しいものができたり古いものは解散したり、今日まで何十年も続いているものとクラブ活動にも六十年の歴史があります。今号から何回かに分けて現在のクラブ活動をご紹介します。



器楽の会 (平成元年発足 二十五年目)

曜日/毎月第一、三木曜日

十三時〜

場所/大ホール

紹介/手と目を同時に使用することで脳の活性化にも役に立っています。毎年の発表会ではクラシックから童謡まで様々な曲にチャレンジ。楽譜が読めない方でも大丈夫!! オリジナルの楽譜を使用し、どなたでもすぐに演奏できます。

はじけろらん (平成二十一年発足)

曜日/毎週木曜日

十四時三十分〜

場所/機能訓練室

紹介/お一人お一人に合わせた体操を理学療法士が立ち会いのもとトレーニングを行います。指先を使う体操では脳のトレーニングにもなり、皆様楽しんで参加されております。



詩吟会 (昭和五十一年発足 三十六年目)

曜日/毎月第一、三火曜日

十三時〜

場所/小ホール

紹介/発声練習では腹式呼吸を意識して行っております。様々な物語のある漢詩を季節やその方々に合わせ吟じています。年

一回の発表会に向け練習を重ねています



編集後記

平成二十五年九月七日に二〇二〇年のオリンピック開催都市が東京都に決まりました。開催都市はメダル獲得数が増える傾向にあるとデータから伺えるとの事。今から十七年後、十六歳の高校生も日本代表に選ばれる可能性を考えると、現在九歳、小学三年生の子供たちにオリンピック選手としてのチャンスがあるという事になります。これからのスポーツ界にどのような新星が現れるのか楽しみです。

夢編集委員会